

わくわく倶楽部

NPO法人えべつ楽友協会

Gakuyu Club

第17巻

第1号

(通巻34号)

発行日

令和7年5月10日

発行人

NPO法人えべつ楽友協会



今回の指揮は札幌市出身の太田弦氏。プログラムは第一部が「クラシック」、休憩をはさんで第二部は「ポップス」という、クラシックファンのみならず多くの人に馴染みがあり、誰もが楽しめる曲目が入る。聞くところによると、このようにポップスが入るのは、札幌江別公演では初めてということだ。その効果もあったのだろうか、子ども連れも多く、客席もほぼ満席に近い盛況ぶりであった。

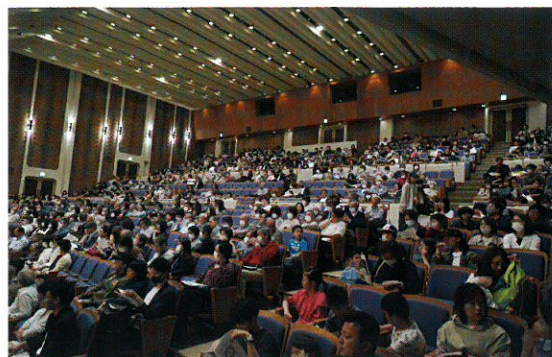
前半第一部は、連続テレビドラマ「のだめカンタービレ」でも使われ、知った方も多いベートーヴェンの「交響曲第7番イ長調Op.92」。全体を通してリズムが支配する曲であるが、札幌の底力を感じさせる技術に裏付けられた、精緻なアンサンブルを聴かせた。

まずは第1楽章、生き生きとしたリズム感が際立ち、管楽器と弦楽器が融合した終結部も見事だった。唯一の短調楽章である第2楽章では、悲哀感の中にも「アレグレット(やや速く)」の指定にそった、躍動感を失わないテンポで聴かせた。そして、第3楽章から最終楽章へとエネルギーを受け継ぎ、ロックやポップスを彷彿させるビートの利いたリズムが執拗なく繰り返り返され、熱狂と陶酔のフィナーレへと導かれた。この素晴らしい演奏は、札幌メンバーの力量はもちろんではあるが、当然太田弦氏の棒によるところが大きい。指揮棒を持たない(以前は使用していたようだ)スタイルの彼の指示は、実に明確でリズム重視のこ



江別市制70周年記念
札幌えべつコンサート「クラシック&ポップス」

2024年5月19日(日)
江別市民会館



の曲を正確にコントロ
ールする。また、やわら
かな流れを醸し出す手
さばきからは、豊かで
芳醇な音が紡ぎだされ
た。堅実かつ生命感に
あふれたダイナミック
な今回の演奏からは、
この若きマエストロの並
々ならぬ力を感じると
もに、対峙する札幌との
相性の良さも感じた。こ
のペアでまた是非「3
番」、「5番」も・・・と
聴いてみたくなったの

は私だけだろうか？

休憩後の第二部は、NHK大河ドラマ「どうする家
康」のメインテーマで壮大に幕を開け、二曲目の「ドラ
ゴンクエスト」の序曲Xと続いた。ピアノやハープ
等、楽器編成も増員され、響きが重厚かつ多彩にな
り、また、親しみのある選曲によって、客席のボルテ
ージも高まっていくのが感じられた。指揮者による
MC、「江別市には親戚がいて」のくだりも、ポップ
スステージに相応しく、会場が心和んだ瞬間でもあっ
た。

次に3曲、映画音楽が続いたが、まずは「風と共に去
りぬ」のタラのテーマ、そしてE・モリコーネの作品が
2曲、「ミッシェン」のガブリエルのオーボエ、「ニュー
・シネマ・パラダイス」の愛のテーマである。ガ
ブリエルでのオーボエは、情緒豊かな旋律を存分に
表現した秀逸な独奏を聴かせていた。ニューシネマ
も、コンサートマスターの情感たっぷりのソロも相ま
って、モリコーネの旋律美が存分に堪能できた。

ラストの2曲も映画音楽からの選曲。まず「パイレ
ーツ・オブ・カリビアン」の彼こそが海賊くは、シリ
ーズ第一作「呪われた海賊たち」のハイライト版にな
っており、勇ましく壮大なテーマから美しい劇中歌ま
で詰まった、心躍る作品。そして続いたラスト曲は
「スター・ウォーズ」のメインタイトル。ひととき

パワフルに鳴り響く金管、鮮やかにきらめく木管が際
立ち、トウツティ(総奏)では、こころ一番ダイナミック
で圧倒的なサウンドを聴かせ、客席からは今日一番の
拍手が沸き立った。鳴りやまぬ感動に応えたアンコー
ルは、デイズ・ニール映画「ピノキオ」の「星に願いを」。
すこぶる美しい調べで、この演奏会の幕を閉じた。

客席で聴いていた多くの聴衆は、この日の札幌の演
奏に心満たされ、脳裏に残るメロディーとともに帰路
についたことだろう。また、子どもたちにとっても、オ
ーケストラの迫力あるサウンドが心に刻まれ、宝物を
もらったような忘れられない日になったに違いない。

(A・M)

円熟のミューズ

村治佳織ギター・リサイタルに寄せて

2024年9月7日(土)

えぼあホール

本

日使用するギターは、『ジェイコブソン』彼女
のトークで、まずギターの製作者の説明から
始まり、曲に関する簡単な物語を聞かせてくれた。

『愛のロマンス』ではプロローグを足して、『森に夢
見る』ではバッハを足して。本人の編曲で曲は自在に
広がりを見せる。

坂本龍一とピアノとギターで2度演奏をしたと言っ
て思い出の話。ホルンから豪華客船『飛鳥』で、お客
さんと共に移動しながらの演奏した事。作曲家『バリ
オス』はロマンチックでショパンのイメージに似てい
ると言っていた事。そして終盤の『メモリー』は、説

明はなく演奏
が始まったの
は先入観なし
に聴いて欲し
いと言う事？

前半の衣装
はオーダー
で後半は市
販品。「誰で



©Nobuo MIKAWA

も買える服」と笑っ
ていた。人脈も広
く、様々な楽器は
勿論、人とのコラ
ボでも無限の可能
性を見せてくれ、
ユーモアもあり話
題は尽きない。ア
ンコールはファン
投票とリクエスト
から曲を選んでく
れたそうで、名残
惜しい時間は遂に終わってしまった。

寡黙にコンサートを淡々とこなす方もいらつしやる
が、私はこんな風に曲やエピソードについても語って
くれる演奏者のコンサートが好きで、曲が『見える』
感じがする。知っている景色が浮かんだり想像したり、
全ての音楽に言える事だけれど、音楽とは耳で楽しむ
だけではなく、取り巻く空気や歴史も感じつつ楽しむ
ものと思っている。

演奏については、人生経験が音を豊かにすると語っ
ていた言葉通り、確かに10代の頃から今までに音色は
変化して、正確且つ綺麗な音が印象的だった始めの頃
の印象が、今では全く別と言っても良いくらい丸みと
柔軟性に富んでいる。

この先どんな風に変化するのか、また、しないのか。
これからも、安心の安定感と驚きの両方を期待しつつ今
後も楽しみにしている。

(A・O)



©Nobuo MIKAWA

小さな雪だるまはポンツと弾んだ！

村治佳織さんとの思い出

も

う14年も前の事。サイン会の会場で目の前の
村治佳織さんに「ギターを弾く人ですか？」
と聞かれた。右手の爪は長く左手の爪は短く。手を見

A photograph of a woman with dark hair, wearing a red sleeveless dress, playing an acoustic guitar. She is looking down at the instrument. The background is dark. The text "©Nobuo MIKAWA" is visible in the bottom right corner.

(沖野彩子)

「0歳からのわいわい音楽会」

えぽあホール

今

もありました。

A group of children and adults are performing on a stage. On the left, a large yellow character with a single eye and a red bow is visible. Several children are standing in a line, some holding small instruments. To the right, a group of adults is playing musical instruments, including a violin and a guitar. The stage is lit with blue and green lights. In the foreground, the backs of several children's heads are visible as they watch the performance.

[illegible]

先日の「ヤヌシュ・スコヴロンピアノリサイタル」に際しましては、322名様のお客様にご来場いただき誠に有難うございます。

これからの演奏会のご案内

◆松田 華音 ピアノリサイタル

日時：2025年9月20日（土）開演14:00

会場：えぼあホール

曲目：チャイコフスキー／「四季」
ベートーヴェン／ピアノソナタ第14番「月光」他

◆0歳からのわいわい音楽会

日時：2026年3月16日（土）開演14:00

会場：えぼあホール

出演者、曲目：調整中

NPO法人えべつ楽友協会入会のご案内

えべつ楽友協会は、江別市内の公的文化施設を主な起点として、音楽文化の普及向上をするために必要な事業を行い、地域社会の芸術文化の振興発展に寄与することを目的として活動しています。会の活動にご理解・ご賛同いただける皆様のご入会を心よりお待ちしております。

●会員の種別と年会費

(会員の種別)	(目的と役割)	(会費など)
正会員	会の運営に参加し活動する個人	5,000円
賛助会員	会を支援する個人	一口 5,000円
賛助会員	会を支援する法人	一口10,000円

●賛助会員の得点

- ・えべつ楽友協会が主催する演奏会のチケット料金を割引いたします。
- ◇個人会員：一口につき1,000円の割引券を3枚発行
- ◇法人会員：一口につき1,000円の割引券を6枚発行
- ・えべつ楽友協会広報誌「がくゆう倶楽部」や演奏会のご案内をお届けします。

●お問い合わせ

えべつ楽友協会事務局

☎090-7652-6065 小林

hiro232koba@bg.wakwak.com

あしがき

この冬は江別にしては少ない雪でしたが、日本のどこかでは何度も押し寄せた強烈な寒波が記録的な大雪を降らせました。自然の力には抗えない、人間の存在を思い知らされます。でも、様々な困難を乗り越え、心の支えとなることの一つに、『音楽』があります。人間が創り出し奏でる『音楽』の力です。それは、歴史に刻まれ時代を超えて今も聴くことができます。次々と新しい曲が作られ、忘れられていくものもありますが、人々の記憶から消えることのない『名曲』がそれではないかと思っています。

今年度は、三年前に予定していた『村治佳織ギター・リサイタル』を開催することができました。村治佳織さんの元気な姿に安堵し、変わらぬ美しさに心を奪われた方が多いのではないのでしょうか。もちろん、ギターの音色と卓越したテクニック、作曲・編曲の妙も十分に堪能していただけたコンサートになりました。ご本人のトークを交えての時間が貴重だったという声もいただき大盛況でした。

毎年恒例の『札幌えべつコンサート』は、札幌市出身の太田弦氏を指揮者に迎え、「クラシック&ポップス」のプログラムでの開催でした。多くの小・中学生と、そのご家族が聴きに來られました。こん後も、北海道唯一のプロのオーケストラである「札幌交響楽団」を、ぜひ聴きにいらしてください。

三月には『0歳からのわいわい音楽会』に、子育て中のお父さん・お母さんと小さなお子さんはもちろん、学生や熟年のご夫妻まで幅広いファンが来場されました。『えべつコンサート』もノリノリでした。

えべつ楽友協会では、冒頭でも触れた『名曲』を含め皆様に足を運んでいただけるような演奏会を企画していきたいと思っています。これからの演奏会で、音楽を愛する皆様とまたお会いできることを楽しみにしております。

(編集係)